

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472200375
法人名	ミモザ株式会社
事業所名	グループホーム ミモザ湘南台
訪問調査日	平成20年10月30日
評価確定日	平成20年12月2日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1472200375
法人名	ミモザ株式会社
事業所名	グループホーム ミモザ湘南台
所在地	〒252-0805 神奈川県藤沢市円行1-9-13 (電話) 0466-46-6260

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	〒220-0074 神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年12月2日

【情報提供票より】(20年10月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	11人, 非常勤6人, 常勤換算10.2人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000円	その他の経費(月額)	38,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(900,000円)	有りの場合 償却の有無	有(3年)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,315円		

(4) 利用者の概要(10月6日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.4歳	最低	66歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘南第一病院、ハローデンタルクリニック、村田会湘南台クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ・事業所は小田急線湘南台駅から徒歩15分の住宅街にある。近くには、公園や川沿いに桜並木の遊歩道があり、利用者の散歩コースになっている。
- ・法人の理念である「社会への貢献、温かい家庭、個人の尊厳」をキーワードに、事業所の方針として「笑顔、挨拶、感謝、チームワーク、整理整頓、介護向上」を掲げている。
- ・散歩や買い物で地域と顔なじみになり、自治会と連携するなど、常に地域の中での暮らしを心掛けている。
- ・本人や家族の意見、モニタリング結果を参考にして、ケアカンファレンスで介護ニーズを話し合い、再アセスメントを行って日常の介護に反映している。
- ・内科・精神科医・歯科医や家族と密接に連携し、利用者、スタッフの健康管理に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ・前年度の懸案であった共用空間内での居場所の確保については、居間の一角にソファを置き、家族と利用者が周りを気にせず過ごせる場所を確保した。 ・事業所の専門性を地域に還元するために、認知症についての勉強会の開催を検討している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ・管理者と計画作成担当者が中心になり、スタッフの意見を聞きながら自己評価票をまとめた。その過程で、スタッフは評価項目の意義を再認識できた。 ・作成した自己評価票はスタッフルームに置き、職員が随時閲覧している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ・運営推進会議は、自治会長、民生委員、地区社会福祉協議会の職員、介護相談員、家族代表者、事業所関係者をメンバーにして3か月ごとに開催している。 ・敬老会、防災訓練などの地域行事に参加して、地域との交流・連携の拡大を図っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ・家族の訪問時に意見や要望を聞き、連絡ノートや個人記録に記載して、スタッフ間で情報を共有している。 ・年2回家族会を開催して意見・要望を聞いているが、これまでに苦情は出ていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ・自治会に加入し、夏祭り、防災訓練などの地域行事に参加している。また、家族にも参加を呼びかけている。 ・近隣中学生の職場体験の要望に応じている。 ・傾聴ボランティア、歌や演奏、縫い物など幅広くボランティアを受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> 理念に「社会への貢献、温かい家庭、個人の尊厳、新しい介護、高質な介護」を掲げ、「笑顔、挨拶、感謝、チームワーク、整理整頓、介護向上」を事業所の行動指針としている。 散歩・買い物・自治会との連携などを通して、地域を常に意識し地域の中で暮らすように心がけている。 		
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 理念を玄関に、行動指針をスタッフルームに掲示している。 毎月開催するスタッフミーティングで理念、行動指針に沿った介護サービスが実践されていることを確認している。 管理者と職員は、行動指針を日々実践し、家族と積極的にかわりをもつように努めている。 		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> 自治会に加入し、夏祭り、防災訓練などの地域行事に参加している。家族にも行事への参加を呼びかけている。 近隣中学生の職場体験を受け入れている。 傾聴や歌・演奏、縫い物などに、幅広くボランティアを受け入れている。 		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 管理者と計画作成担当者が中心になり、職員の意見を聞きながら自己評価票をまとめた。その過程で、スタッフは評価項目の意義を再認識した。 作成した自己評価票はスタッフルームに置き、職員が随時閲覧している。 		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議は自治会長、民生委員、地区社会福祉協議会の職員、介護相談員、家族代表者、事業所関係者をメンバーに、3か月ごとに開催している。 敬老会、防災訓練などの地域行事に参加し、地域との交流・連携の拡大を図っている。 		

ミモザ湘南台

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・藤沢市役所の担当者と、事業所の運営について相談している。 ・市のグループホーム連絡会に加入し、研修会などの行事で市の担当者と情報を交換し、また、市からは場所の提供や車いすの手配などで協力を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月、利用者の生活状況を記載した便りを発行し、金銭出納簿を同封して家族に郵送している。 ・家族の訪問時に、また、年2回の家族会で、利用者の生活状況や健康状態、事業所の運営状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の来訪時に、意見や要望を聞き、連絡ノート、業務日誌、個人記録に記載して、職員間で情報を共有している。 ・家族会を年2回開催して意見・要望を聞いている。家族の要望に応じて、スタッフのモットーや写真入りのポスターをフロア内に掲示した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・常勤職員の離職は少なく、利用者の安心感につながっている。 ・ミーティングでは、スタッフの積極的な発言と自発的な考えを大事にし、ボトムアップ型の運営を心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人による管理者・管理者候補研修、エルダー研修を実施している。新入スタッフにはエルダーが3か月間OJTで指導している。 ・毎月テーマを決め職員が講師になり「職場30分研修」を行っている。 ・社外研修参加者は事業所に報告書を提出し、スタッフミーティングで内容を発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・藤沢市のグループホーム連絡会に参加して、事業者間で情報を交換し、また、同主催の研修会(介護技術、普通救命、調理研修など)に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 入所前、ケアマネージャーと職員が、自宅を訪問してアセスメントを行い、利用者ニーズを把握して入居後のケアのあり方を検討している。 本人や家族には、事前見学や体験入居を勧めて事業所に馴染めるように配慮している。 併設の小規模多機能施設で宿泊に慣れている利用者は、比較的円滑にグループホームの生活を始めている。 		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 職員は家庭と同じ雰囲気を大切に、利用者と共に過ごすことを心がけている。 職員は包丁の使い方、野菜の調理方法などを利用者の経験に学び、また、利用者には力量に応じた作業を提供して、感謝やいたわりの言葉を貰っている。 		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> 日常の会話の中から利用者の思いや意向を把握している。 可能な利用者には、ケアカンファレンスに参加して、意向を直接述べて貰っている。 意思表示の難しい利用者の場合は、家族の意見を参考にして 		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> 毎月2～3名の利用者を対象に、スタッフ4～5名でケアカンファレンスを開催して、ケアのあり方を検討している。 各種の個人記録、家族の意見、医師のアドバイス、本人の意向をもとに介護計画を作成している。 		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> 介護計画は3か月ごとにを見直している。 本人や家族の意見、モニタリングの結果を参考に、初期のアセスメント内容を見直して介護計画に反映している。 見直しまでの期間中に変化が生じた場合は、家族に連絡し、随時、介護計画を見直している。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の要望で、職員が通院に付き添うなど、柔軟に対応している。 ・利用者は、併設の通所介護施設のイベント(ハンドベル演奏会、車椅子ダンス、ハーモニカ演奏など)に参加し楽しんでいる。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関には、湘南第一病院(内科:月1回往診)、ハローデンタルクリニック(週1回往診)、村田会湘南台クリニック(緊急対応)がある。昨年から月2回精神科医の往診を受け、認知症ケアの向上に努めている。 ・入居前のかかりつけ医を継続している利用者もいる。 ・利用者、職員は年1回(夜勤は2回)の健康診断を受けている。 		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化したり場合や終末期には、医師、家族と密接に連携をとり適切に対応している。 ・入居時に重度化や終末期の事業所の方針を説明している。 ・スタッフミーティング、ケアカンファレンスで、重度化した場合のケアのあり方について話し合い、職員が共通認識をもち行動するように努めている。 		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にした言葉かけに配慮するように、スタッフミーティングや日々の活動の中で確認している。 ・個人情報に関する書類は施錠管理し、メモなどはシュレッダーにかけて処理している。 ・調査日に職員に不適切な言動は見受けなかった。 		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の生活のリズムを大切に、無理強いをしないようにしている。 ・利用者のしたいことを第一に考え、職員との外出や、趣味を楽しむ時間を過ごせるように支援している。 ・就寝時間は利用者の気持ちに添うように見守っている。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者は能力に応じて、調理・配膳・片付けに参加し、誕生日会やイベントのときは、おやつ作りをしている。 ・家族会では、すし職人を事業所に招き握り寿司を楽しんだ。 ・日々の食事に変化を持たせるため、月1回外食している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・希望があれば毎日入浴できる。 ・入浴を好まない利用者には声掛けやタイミングを見て対応している。 ・職員が必ず温度をチェックして、利用者の好みの湯加減にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・生活歴を活かして、調理の手伝いや夏祭りの着付けなど、今までできていたこと、今できることを見つけて支援している。 ・月1回、ボランティアの指導で書道を楽しんでいる。また、音楽を積極的に暮らしの中に取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・利用者の希望や体調に合わせて、近くの公園や川岸沿いの遊歩道に散歩に出かけている。 ・買い物や外食など、外に出る機会を作っている。 ・車いすの利用者にも、日常的に外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関の鍵は日中かけていない。 ・居室は中から施錠できるが、外から開錠できる。 ・ユニットの出入り口に階段があり、危険防止のため施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年1回、利用者が参加して、事業所全体で避難訓練を実施している。 ・本年3月と9月に、職員が自治会主催の防災訓練に参加した。 ・消防署のアドバイスがあり、夜間災害のときに慌てないよう机上トレーニングを計画している。 ・グループホームとしての非常用の水・食料の備蓄はない。	○	・隣接の小規模多機能型事業所と共同で、災害対策用の、水・食糧の備蓄を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土・日以外のメニュー、食材は業者に委託し、業者の管理栄養士が栄養価や栄養バランスをチェックしている。 ・食事、水分の摂取量をチェックし、個人別に記載している。 ・水分や食事の管理が必要な利用者は、医師の指導を受けて嚥下体操をし、また、食べやすい形にして摂取を促している。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共同空間は明るく清潔で、整頓されている。 ・壁面に自作の書や季節の花、折り紙、行事の写真、大きな文字で見やすいカレンダーを掲示して、季節感や生活感を出している。 ・玄関フロア脇の長椅子が、仲間や一人でくつろげる場所になっている。 		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には仏壇、タンスなどの調度品、写真や趣味の置物など愛着あるものを持ち込み、その人らしい部屋にしている。 ・入口には識別しやすい名札を、室内には利用者好みのカーテンかけて、個性的な雰囲気を出している。 ・居室にもエアコンがあり、心地良い室温で過ごせるようにしている。 		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームミモザ湘南台
(ユニット名)	ふじの家
所在地 (県・市町村名)	神奈川県藤沢市円行1-9-13
記入者名 (管理者)	井上恵理子
記入日	平成 20 年 10 月 1 日

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームミモザ湘南台
(ユニット名)	ゆりの家
所在地 (県・市町村名)	神奈川県藤沢市円行1-9-13
記入者名 (管理者)	井上恵理子
記入日	平成 20 年 10 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	行動指針あり。1、いつも笑顔で明るく 2、いつも大きな声で挨拶を 3、いつも感謝の気持ちを持って、頭を低く(言葉遣いに注意してください) 4、いつもチームワークを大切に(相互理解、相互信頼) 5、いつも整理整頓を(使った物は元の場所に) 6、いつも介護向上の努力を	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット内のスタッフルームに掲示し、毎月行われるスタッフミーティングにて毎回確認している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議で地域の代表の方や家族の代表の方に地域における施設の在り方や理念を話している。契約時、見学時に理念をもって取り組んでいることを話している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃から挨拶を交わし合ったり、自治会の行事を通して積極的な関わりをもつように努めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、地域行事に積極的に参加している。家族へも声かけし、参加を促している。(夏祭り・防災訓練等) 六会中学生の職場体験を受け入れている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を通じて、地域密着サービスの位置づけ等を説明し、利用者が参加できる行事や催し物等の情報提供を依頼している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者は「サービス評価ガイド集」の考え方を基本的に、常日頃より地域に開かれた施設運営をモットーに、ご家族やスタッフに話し、改善を試みている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>実際に利用者が参加した地域行事での状況を推進会議で報告し、そこで出た評価や情報をスタッフミーティングで話し合い、今後のサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>藤沢市のグループホーム連絡会(市担当者出席)に毎回参加して、情報交換等を行って、サービスの維持・向上に努めている。 藤沢市介護保険課に折にふれて指導を受けている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>未実施</p>	○	<p>今後は積極的にセミナー等に参加して、利用者ニーズにあったものを提供できるよう努めたい</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法関連の勉強会を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約締結前には必ず面談をして、家族が抱える問題や不安の解消に努め、文書と口頭で説明し、理解・納得を得た上で家族の同意を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃の利用者との関わりの中で得た意見や不満、苦情等を毎月のスタッフミーティングやカンファレンスで改善に向けて話し合ったり、毎月の介護相談員の訪問による第三者との接触の機会を設けている。 ご利用者様の皆様への掲示で苦情相談窓口を明示し、説明している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>生活状況として、月一回の金銭出納簿、その月の様子を家族に報告している。また、何かあれば随時、電話や面会時にお話している。年2回家族会の定期開催をして情報を幅広く公開している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第三者が参加している運営推進会議への参加をお願いしたり、半年に一回、家族会を開催して意見・要望を賜っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>現場での個々の事はスタッフミーティングで誰もが意見が言えるようにし、部署としての意見はセンター会議で相互協力の下に意見交換をしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者が勤務表を作成して、日中3人、夜勤1人体制で連携を図っている。利用者の状況に応じて勤務変更等の調整を行ったりしている。スタッフミーティングで職員配置上で不備がないかを確認している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>慢性的なスタッフ不足で異動・離職は避けられないが、利用者の特性に応じた介護サービスのスムーズな継続に意を用いている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人によるエルダー教育制度を導入してOJTを円滑に行っている。3ヶ月間エルダースタッフが密着して業務習得に努めている。</p> <p>管理者候補、管理者研修も行われている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>藤沢市のグループホーム連絡会に毎回参加して、事業者同士の情報交換や連絡会主催の研修会にも参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員相互の親睦を図るために定期的な懇親会の開催をしている。昼食の休憩時間も出来る限り取れるように配慮している。(別室の設定)</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人による個人評価表による定期的な評価や近未来プランを通して職員の夢の実現をアシストしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に自宅訪問して、必ず本人に会って面接をしながら抱えている不安やニーズを探り、アセスメントしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に自宅訪問して、必ず本人と家族煮に会って面接をして得た情報等をケアマネからの情報と照らし合わせながら、家族が求めていることの発掘に努めて、アセスメントしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、認知症という病気のことから、他のサービスの必要性を確認・説明して、必要と思われる場合は、必ず情報提供を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を決める前に利用者本人の当施設への見学を勧めている。また、必要に応じて体験入居の案内をしている。馴染みの家具や小物の持ち込みを薦めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・着付けの仕事をしていた方に、夏祭りでの浴衣の着付けをお願いしたり、調理の際、得意なことがある方には切り方などの助言ややり方を教わったりして、その人の生活に密着した場や役どころの提供を行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	通院の付き添いや外出、外食の付き添いの協力をお願いしたり、面会に来られた時に要望等を聞いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	あらためて、家族からご本人の生活歴などの聞き取りを行って、今までの生活の延長を出来る限り提供できるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の主治医との連携の継続などや親戚、友人の面会を推奨している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人と同席にしたり、気の合わない人とは距離を置くなどの配慮をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	何かあれば、いつでも相談にのらせてもらう旨を伝えている。退居後も入院加療している方にお見舞いに行ったり、家族から病気の経過なども聞くようにしている。退居＝終わりじゃないことを意識して行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新規利用者のアセスメント時やモニタリング時には、利用者の意向を聞き、把握に努めている。利用者に寄り添う介護とは何かをカンファレンス等を通して話し合ったりしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用者については、初回面接時に家族や本人に話を聞き把握するよう努めているが、既入居者に対しては、本人及び家族からの生活歴等の聞き取りによって、その人らしい生活の提供に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の支援経過記録の記載。午前、午後の申し送りにて把握し、カンファレンスでは積極的な意見をスタッフに促して、一人一人が利用者の把握に努めるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規利用者については、入居時のプラン後2～3ヶ月後にカンファレンスを行い、より具体的なプランにつなげている。既入居者においては、モニタリングを行う際に本人や家族等に意見を持ちかけたり、意見を頂いたりして得た情報を加味しながら介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じ、管理者が家族等と連絡を取り、相談するなど状況の変化に応じたその場に相応しい対応をした柔軟な介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の支援経過を記録し、業務前に必ず目を通したり、申し送り等で情報の共有をしたり、必要に応じては家族と連携を取って見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスと合同でボランティアの受け入れなどを行っている。 本人や家族等の状況・要望に応じて、訪問診療(歯科・精神科)の対応をするなどしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に介護相談員の方の訪問やボランティアによる書道などの利用者の意向に沿うような各種レクリエーション等を提供し、支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具の事業所との協力連携により、家族の意向及び本人に合った福祉用具の選定をしてもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の出席を促進しているが、日程が合わず出席にいたっていない。	○	地域包括支援センターのケアマネジャーによる施設見学や権利擁護事業・成年後見制度の説明会等をお願いしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の協力医療機関の医師による往診。昔からの主治医がある場合には、本人及び家族の意向を尊重して今までの関係を継続しながら診療を受けられるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月2回、精神科医の往診により良い認知症のケアに努めていると共に、スタッフの日頃の認知症ケアにおいて相談しやすい関係を構築している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフに看護師がおり、日常の健康管理を始め、医療機関との連携を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中、病院への訪問や家族を通じて病状説明を医師に申し入れてもらい、病状説明の席に同席をさせてもらい、病状の把握と退院時期の確認等の情報提供に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居検討時から、終身施設ではないことを説明し、先々についてはその都度相談させていただき旨を、管理者より家族等に説明している。施設でみられる限界までのケアについてスタッフミーティングやカンファレンスで検討しあったり、入院加療が必要になった場合については、担当医や主治医と相談連携している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居検討時から、終身施設ではないことを説明し、先々についてはその都度相談させていただき旨を、管理者より家族等に説明しているとはいえ、今後不可避のターミナルケアについては研修に参加したり、勉強会を行ったり体制作りに努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	支援経過や医療情報など、本人の状態について受け入れ先の相談員や看護師と継続支援について話し合ったりして連携をとっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフミーティングで個人情報保護法の勉強会や言葉遣いの配慮(丁寧な言葉、人生の先輩であることを意識)個人情報のメモ等はシュレッダーにかけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の分かる力に合わせ、決定できる事はしてもらっている。また、選択できる事はしてもらうよう配慮している。おやつの際にコーヒーがいいか？紅茶がいいか？お茶がいいか？など	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望等を受け止めて、それを叶える方法をスタッフミーティングなどで考えている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者によっては、家族対応で外出にて美容院に行く方もあるが、他の方たちは訪問美容を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人その人の能力に応じて、積極的にスタッフと共に食事の準備や片付けに関わってもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族からの差し入れ等は基本的に自由だが、何をどの位持ってこられたか等を申告してもらっている。その中で本人に楽しんでもらえるよう配慮している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表をつけるなどして、一人一人のパターンを考えて、なるべく誘導・介助してトイレでの排泄につなげるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人が規則的なリズムの下に入浴できるように配慮しながら行っている。拒否の方には、幾度となく声かけをしたり、夜間入浴を試してみたりと、色々な角度から誘いを試みている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の習慣などを家族から聞き取りをしたり、その時の体調をみて、自室でゆっくり休めるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食堂を営んでいた方には調理の手伝い、着付けをやっていた方には、夏祭りで皆に着せてもらう機会をもうけるなど、家族から聞き取った生活歴を活かして、昔を取り戻したり、笑顔が増えるような支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に関しては、家族の協力と連携が必要になってくるので、事前に確認して行っている。外出支援の時になど買い物をしてもらったりもして、金銭感覚の支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換や両下肢筋力向上のため、散歩を習慣にしている方もいる。また、週に一回は買い物に行ったり、日常生活上の外出を楽しめるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族対応での外出や食事はある。書道好きな利用者さん達と書道展に出かけるなどしている。毎月外食にも出掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい要望があれば応じている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、誰でもが面会に来れる雰囲気を心がけている。友人が会いに来られることも多い。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言をスタッフルームに掲示。身体拘束は絶対に行わないとスタッフミーティングで話し合っている。また、勉強会も行うようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の居室の窓の開閉を入居前の生活と同じように自分で行えるように、家族に安全管理面に同意を得て行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通してスタッフが見守りしやすい構造にはなっているが、意識して見守る態勢を心掛けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な調理器具や服薬関係は、鍵をかけられる棚で保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のために、ひやりハットや事故について、事故防止検討委員会をスタッフミーティングで行い、事故防止及び再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スタッフミーティングにおいて、日中及び夜間時の緊急対応についてマニュアルを基に話し合っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練にも参加して、いざという時の協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒等のリスクについては、家族にも随時状況を説明して、了解してもらえよう心がけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定及び申し送りにてスタッフが把握すると共に、体調の変化や異変の早期発見に努め、異常が認められたら管理者に伝えたり、家族に報告したりと早めの対応を心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全員が関わっていることなので、常日頃から意識して取り組むようにしており、変わった時は内容を把握できるよう医療ファイルに記入している。また、申し送りノートにも記入している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちな方は毎日チェックをし、水分量の把握やおやつ時に乳酸菌食品や飲料の摂取などをして、自然排泄を心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝食、夕食後には歯磨きを行うように口腔ケアを習慣づけている。歯がない方についても残物をスポンジ棒で取り除く等、口腔状態の清潔保持をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのよい献立となっている。毎回の食事量のチェックをすると共に、水分確保が必要な方については、水分量のチェックや好きな飲み物を探るなどして、なるべく飲んでもらえるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ノロウイルス対策として、感染症マニュアルを配備したり、感染症の勉強会を行ったりしている。また、日常で物品消毒、手指消毒やうがい、マスク配備、ペーパータオルを所定の場所に置き、早急な対応ができるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的な調理器具の消毒。ほぼ毎日の食材の配達にて、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。スタッフの細菌検査(検便)も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家族の方々や近隣の方々が自由に出入り出来て、来訪された時には温かく迎え入れるよう心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所などは一般家庭のような雰囲気を醸し出すような感じで、居間においても季節感をイメージした装飾を施したり、各種レクリエーションを実施した時の写真を掲示して、いつでも楽しかった雰囲気を感じられるように演出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には大きなソファが二つあり、気の合った利用者同士でくつろげるようになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具を持ってきてもらったり、好きなぬいぐるみを配置したりして、それぞれの自宅に近い落ち着ける空間演出を心掛けている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居間及び各居室にエアコンを設置。寒すぎず暑すぎず、利用者の意見を聞きながら随時温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いスペースで車椅子の移動にも余裕がある。壁には歩行補助の手すりがある。車椅子の利用も可能なウォシュレット付のトイレには立位安定のためのつかまる手すりがある。3人乗りのエレベーターも設置しており、一人一人の身体機能に対応した工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の力に合わせた場所の設置(左右にトイレ)するなどして、自立性を高めるように支援している。各居室には大きくわかりやすいように名札(表札)を設置するなどしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダも生活空間のひとつとして捉え、午前中に洗濯物を干し、布団を干して、午後に取り込むという一般家庭には当たり前前の光景として使用している。併設している事業所にプランターで花や植物を育てているので気分転換に散歩がてら出掛けている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ミモザ湘南台は、安全で・安心して・快適な生活の提供をモットーに、日々介護に、介助に、そして援助をしております。

また、お一人おひとりに寄り添った、その人にニーズに沿った生活のサポートに努めております。

日常生活の中で、各種レクリエーションを行っておりますが、1つひとつ行われる内容を通して、如何にご利用者の方々が心を動かしてくれているか、所謂感動をさせていただいているかを

意識しております。楽しくて笑って、喜んで、時には哀しみ、たまには怒ってみたりと、普段の生活の中には当たり前になり得ることをレクリエーションや日常の会話から引き出すよう

努めております。

温かい生活環境は、笑顔からはじまります。笑顔がある場所は温かいものだと思います。